

お知らせ

二月例会
期日…立教 188 年 2 月 25 日
時間…15 時 30 分受付 16 時開始
会場…教庁 4 階講堂

学生層育成者講習会

日程・会場案内

Table with columns for location (e.g., 香川, 滋賀, 京都), date, time, and venue (e.g., 教務支庁, 教務支庁).

報告

十二月例会

去る 12 月 25 日、教庁 4 階講堂において「12 月例会」を開催。出席は 27 教区、90 直属。

人事

《立教 187 年 12 月 25 日付》
【直属学生担当委員長辞令交付】
菅野健一（中野・那古野）

業務記録

- 《立教 187 年 12 月 16 日～188 年 1 月 15 日》
12 月 17 日 学生連絡会
24 日 担当者活動部部会
25 日 委員会 例会
1 月 4 日 おせち学生ひのきしん隊（～7 日）
学修部部会
8 日 委員会
高校の部研究室
広報室会議
9 日 大学の部研究室
高校卒業生コース研究室
人材育成部部会
春の学生おぢばがえり
プロジェクトチーム会議
学修係員チーム会議

学生担当者報 2

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 清水慶政 編集責任者 / 中山祥吉
Vol. 456 立教 188 年 2025 年 1 月 25 日発行
TEL 直通: 0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp
TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net

「また学修に行きたい！」



学修のご用に携わるようになり、よく自分自身

が学生の頃を思い出します。管内高校でしたので、高校の部には参加したことはありませんが、大学の部には 2 回参加しました。1 回目は、一れつ会の扶育生は一度は参加するように、とのことで、仕方なく参加しました。そして、その翌年も参加したのでも、よく覚えていません。「また学修に行きたい！」と、自ら進んで参加したのです。1 回目の学修は、それはとても楽しいものでした。すてきな仲間にも恵まれ、お道に対してとても前向きになれました。「来年も絶対に参加しよう！」と思っ

ていました。しかし、それから 1 年経ち、また学修にお誘いいただいた時、はじめは正直迷っていました。自分の自由な時間と学修とを天秤にかけていたのだと思います。その中で、前回参加した時のことをいろいろと思い返していました。楽しかったこと、仲間と過ごした時間、自分なりに頑張ったこと…。そこには、その後の一年を通して見ても、ひと際輝いている自分の姿がありました。素晴らしい仲間と共に、若いなりに一生懸命のお道と信仰と向き合い、尊い時間を過ごしたことが思い出され、「また学修に行きたい。またあんな自分になりたい。」と強く思い、2 回目の学修に参加したのでした。そうして参加した学修も素晴らしい

青空

私は 10 代後半から様々な場所で集団生活を体験しました。その集団生活をしている中で、気にする必要のない、人の悪いところばかりに目がいき、心の中で不足をすることがよくありました。忙しくて自分に余裕がない時には、心に思っていることがつい言葉に出てしまい、相手と衝突してしまうこともありました。そんな自分に嫌気がさし、不足まみれの自分を変えたいと思い、尊敬する先生に教えを乞うことがたびたびあります。ある時、不足の悩みを相談した際に、「不足するのは自分の心の器が小さいだけで、器の小ささを皆にさらけ出しているだけ」と教えていただきました。不平や不満を口に出すことは恥ずかしい行為なんだという事に気づき、心の器を広げたいと思うようになりました。喜べないことも喜びに変えて通ることを繰り返すことで、神様から心に徳をいただいて心の器を大きくしていただけたように、これからも心の成人に努めていきたいと思えます。
人材育成部本部スタッフ 鈴木 大門

学生生徒修養会部 委員

藤原 親蔵

いものでした。「去年のような自分になりたい。いや、もっと良い自分になるんだ」と、学ぶことも、楽しいことも、若いなりに一生懸命頑張ったように思います。学修では、知らない自分に出会えます。新しい立場の仲間や真実込めて務めるスタッフと共に、心寄せ合って親元で過ごす時間が、それを引き出してくれるのだと思います。これは、普段の学生生活では中々体験することのできない本当に特別なものです。この春も、学生生徒修養会大学の部、高校卒業生コースが開催されます。多くの道の後継者にお集まりいただき、親神様・教祖に一歩近づいた新しい自分に出会って欲しいと思います。

令和 7 年 学生担当委員会 活動方針 「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」

立教 188 年 基本方針

### 「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」

教祖 140 年祭へ向かう年祭活動のこの旬に、まずは先に道を歩む私たちお互いが、教祖を慕い、教えをしっかりと心に治めて、信仰の有難さとひながたを辿る喜びを学生たちに伝えていきたい。また、折に触れ、教祖年祭の意義を伝えるとともに、自らが勇んで年祭活動に取り組み、学生の良き手本となるよう、自らの姿を通して信仰信念を写していく。

そして、教祖のひながたを道しるべに、陽気ぐらしへと向かうこの道を学生と共に歩んでいきたい。

#### <実践項目>

#### 一、教祖のひながたを学び深め、年祭活動を学生と共に歩もう

まずは、育成に携わる私たち自身が教祖のひながたを学び、教えを実践する中に理解を深めていく。そして、自らが学び得た感激とともに信仰の喜びを伝え、ご存命の教祖のご存在と親心、陽気ぐらしのひながたについて学生に伝える。また、各行事はもとより、折に触れて年祭活動の意義や旬の理について学生と話し合う場を持つ。

#### 一、おちばが心の拠り所となるよう学生に働きかける

親神様がお鎮まりくださり、教祖がお住まいくださるおちばは、嬉しい時、迷った時、苦しい時に帰ってきたいと思えるような若者たちの心の拠り所となるべき場所である。

教祖 140 年祭までのこの期間に、学生の積極的なおちばがえりを呼び掛けるとともに、おちばが学生の心の拠り所となるよう、おちばの有難さや信仰の喜びを伝える。

また、春の学生おちばがえり、学生生徒修養会、こどもおちばがえりひのきしん、おせちひのきしんへの参加を促すことはもとより、4 月教祖誕生祭（婦人会総会）、10 月秋季大祭（青年会総会）、教祖 140 年祭当日へのおちばがえりを促す。

## 「おせち学生ひのきしん隊」開催報告

新春の親里で開催された「お節会」に際し、「おせち学生ひのきしん隊」を結成し、「喜びあふれる笑顔と明るい声のさわやかなおもてなし」をテーマにひのきしんに励みました。今回のおせち学生ひのきしん隊には全国各地から 150 名（高校生 89 名、大学生 61 名）の学生が参加し、1 月 4 日から 7 日まで第 7・8・9 母屋にて合宿生活を送りました。

おせち学生ひのきしん隊では、高校生班と大学生班に分かれ、それぞれの班でひのきしんや宿舍での合宿生活を共にしました。「お節会」ではテント会場において、給仕や誘導のひのきしんをさせていただきました。寒い中ではありませんでしたが、一人でも多くの帰参者に喜んでいただけるよう勤めさせていただきました。また、ひのきしん後には、翌日のひのきしんに向けて打ち合わせや反省会を行うなどして、精一杯のおもてなしを心がけ、学生たちはひのきしんを通して多くの喜びを分かち合うことができました。

テント会場でのひのきしん後には、お鏡開きで使用した物品の清掃ひのきしんやレクリエーションダンスを行いました。清掃ひのきしんは、テント会場でのひのきしん後ではありませんでしたが、お互いに協力し合い、楽しく笑顔で勤めていました。また、レクリエーションダンスは、班の仲間以外との交流ということもあり、初めは緊張しているようでしたが、次第に笑顔が増え、大いに盛り上がっていました。

宿舍では、主に班の仲間との時間を過ごし、ひのきしんの振り返りやゲームなどを通して、おちばで出会った仲間たちと親睦を深めました。さらに、期間中には 31 名（初席 3 名、中席 28 名）の学生が別席を運ばせていただきました。

学生たちは感謝の心を胸にご恩報じの気持ちをもってひのきしんに臨み、それぞれの持ち場での自主的な取り組みや人との交流を通して信仰の喜びを深く味わい、有意義な 4 日間を過ごしました。

◇参加者の声  
初めておちばでのひのきしんに参加させてもらいました。また、おせち自体も初めてでしたので、驚きでいっぱいでした。学生ひのきしん隊で出会った仲間たちと共にひのきしんをするのは新鮮でも楽しかったです。  
（高校生 男子）

多くの帰参者の方に来ていただき、笑顔を見ることができて、とても幸せいっぱいになりました。ひのきしんで身体をたくさん動かして、心もいっぱいになりました。また、高校生の班員の子たちとコミュニケーションをとりながら、多くの出会いがあつてすごく充実していました。  
（大学生 女子）

（高校生世話班をつとめて）高校生のみんなに元気をたくさんもらい、さらには、自分のことだけを考えるのではなく、班員みんなのことを考えて、先々に行動することの大切さを学びました。  
（大学生 女子）